

# ろんだん 佐賀



**荒木 薫さん**  
佐賀大学  
ダイバーシティ推進室副室長

あらい・かおる 1979年、長崎県佐世保市生まれ。佐賀医科大卒。小児科医として県内の病院勤務を経て佐賀大学大学院医学系研究科に進学し医学博士号を取得。佐賀大のダイバーシティ推進室副室長、保健管理センター助教に就任し、大学内のダイバーシティ推進や学生のキャリア教育、教職員の健康管理などを担う。佐賀市。

「人生100年時代」という言葉を聞くに久しい。2019年、日本の100歳以上の高齢者人口は、7万人を初めて突破した。1980年の時点では、968人であり、この39年の間に約77倍まで増えた計算になる。このまま医療が発達し、人間の平均寿命が延び続けられれば、いずれ100歳まで生きることが当たり前の時代となる。そこには、これまでの「人生80年時代」では予測することができない、社会の在り方、各個人のライフスタイルの変化が生じる。これまで「当たり前」であった、入学、卒業、就職、退職、静かな老後というライフプランが、成り立たなくなるのである。加えて、AI、IoT技術、ビッグデータの活用という、いわゆる第4次産業

## 人生100年時代の教育

# 多様な価値観、次世代に

革命の進展により、さまざまな知識や情報が共有され、全人間的なモノがつながる時代となる。この社会システムの変化は既に始まっており、この10年での流行の入れ替わりはめまぐるしく、人々の価値観も大きく変わった。私は、小児科医として、大

「教え」となってしまう。未来は、その価値観では図ることのできない世になっていくかもしれないのに。少子高齢化で人材が減る傾向にある中、正解のない社会の中核を担うことになる若い世代にわれわれ現役世代は何を伝えるべきか。教育の役割は、その最たるものだ。さらには、私たちが好きな教育、若者を、よりよい状態の身体と精神で(欲を言えば一つでも多くの強みを持たせて)社会に送り出すために環境を整えることには、ゆくゆくは健全な社会へとつながる。こんな

学教員として、一人の親として、若い世代を次の社会に送り出す立場に不安を感じている。人は、自身の知識や経験、その時の常識で子供や後輩の教育・育成をする。過去に成功体験があるときさらに厄介で、違う世界をなかなか想像できず、自身の物差し、価値観が絶対であると信じて疑わ

割は重大である。そして、その教育というのは、教師や保護者、人材育成担当者のみで行うものではない。多様な価値観を次世代に伝えるためにも、社会全体で捉えていく課題なのである。

人口減少、超少子高齢化、予測不可能な時代。未来を語るときに必ずやでるこれらの重要であり、その一つの要素述べていきたい。

「生涯学習」「リカレント教育」という言葉に代表されるように、若者のみならず、現役世代もその恩恵を受けている。「人生100年時代」を提唱したリンダ・グラットンら、ダイバーシティや女性活躍、働き方改革、小児医療、は著書の中で、長寿社会を生き抜くためには、財産やお金とは異なる「無形の資産」となる項目について、考えを

